



# 芸術と科学のあいだ

2014年 (38)

## 渦巻く縄文の美、優美に昇華

福岡 伸一

縄文土器の美を「発見」したのは岡本太郎である。1951年の秋、偶然、縄文土器を目にした彼は電撃的な衝撃を受けた。そのときの思いをこう書いている。

「わたしの皿の中に力がこぼれ起るのを  
「激しく追いかぎり重なり合  
て隆起し下降し、旋廻する隆線紋。  
これでもかこれでもかと執拗に迫る緊張  
感、しかも純粹に透った神祕の鋭さ。常  
々芸術の本質として超自然的激趣を主張  
する私できえ、思わず吐びださる震み  
である」(「縄文土器論」)

この、だるもつな渦の運動がある臨  
界点を超えて解き放たれたとき、それは  
どこへ向かうのだろうか。室伏広選手が  
カ一杯に投げたハンマーの軌跡を思い起  
こせばよい。旋回運動はその求心力を切  
断された隣間、ベクトルは円周の接線に  
沿ってまっすぐ外へ向かうのだ。岡本  
太郎が血の中に感じた力、隆起、緊張、  
激越、そして吐びの本質もここにあり。



縄文土器はその  
火焔の中に一気  
に外側へ射出さ  
れるべきエネルギーを秘めてい  
るのだ。

岡本太郎自身は、「太陽の塔」や「明  
目の神話」に代表されるように、縄文的  
なエネルギーをそのまま巨大な旋回ど  
ろのパーツとして爆発的に作品に込  
けてみせた。

ただし現代の美術家ならば、この挑  
戦をどのように受け止めるだろうか。大英  
博物館の日本キヤタリには、新潟県津  
南町・室蓋跡出土の兎事な火焔式縄文  
土器が飾られているが、そのかたわら  
に「細野仁美による「羽根の葉の器」(2  
013年11写真)という作品が並びな  
げ置かれている。行き場を求めて渦巻く  
縄文の原始的な旋回のエネルギーがこ  
こでは美にエリガントに、そして優美に  
昇華され、繊細なフグメントとして柔  
らかく散がれている。太古からの挑戦  
に対する、なんどスタリッシュな返報  
だろうか。この対比の妙を演出したキョ  
ウターのエスリに、思わず唖然させら  
れた。

©The Trustees of the British Museum  
(生物学者)

陸  
ど  
コ  
エ  
シ  
ン  
の  
部  
で  
目  
が  
帯  
目

### 福岡 伸一

縄文器の美を「発見」したのは岡本太郎である。1951年の秋、偶然、縄文器を目にした彼は電撃的な衝撃を受けた。そのときの思いをこう書いている。「わたしの皿の中に力がこぼれ起るのを

覚えた」「激し追いかぎり重なり合つて隆起し下降し、旋廻する隆線紋。これでもかこれでもかと執物に迫る緊張感、しかも純粹に透つた神経の鋭さ。常々芸術の本質として超自然的激趣を主張する私できえ、思はず吐びだつたる凄みである」(「縄文器論」)

この、だるもつた渦の運動がある臨界点を超えて解き放たれたとき、それはどくへ向かうのだらうか。室伏広選手が力一杯に投げたハンマーの軌跡を思い起し、二せきよい。旋回運動はその求心を切断された隣間、ベクトルは円周の接線に沿つてまっすぐ外へ向かうのだ。岡本太郎が血の中に感じた力、隆起、緊張、激越、そして吐びの本質もここにあらう。



縄文土器はその火焔の中に一気炎に外側へ射出されるべきエネルギーを秘めてい

るのだ。岡本太郎自身は、「太陽の塔」や「明日の神話」に代表されるように、縄文的なエネルギーをそのまま巨大な旋回どろねのパートとして爆發的に作品にこ

けてみせた。ただし現代の美術家はらば、この挑

戦をどのように受け止めるだらう。大英博物館の日本キヤムリーには、新潟県津南町・室蓋遺跡出土の縄文火焔式縄文土器が飾られているが、そのかたわら

に、細野仁美による「羽根の葉の器」(2013年)写真)という作品が並びなが

ら置かれている。行き場を求めて渦巻く縄文の原始的な旋回エネルギーがこ

こでは美にエリガントに、そして優美に昇華され、繊細なフグメントとして奏

だつ。この対比の妙を演出したキムリターのエスリに、思はず瞻望せしめ

れた。(生物学者)  
©The Trustees of the British Museum

## 芸術と科学のあいだ

2014年 (38)

### 渦巻く縄文の美、優美に昇華

陸田 伸一